

ボラコ新聞

小児医療施設ボランティアコーディネーターの会

参加者の皆さんと
(2019・10・31)



- 参加者 19人
- ★ 神奈川県立こども医療センター 加藤悦典と3人のボランティア
 - ★ 宮城県立こども病院 佐藤直子
 - ★ あいち小児保健医療総合センター 金岡好・金城充沖
 - ★ 慶応大学病院小児科 天野秀基
 - ★ NPO法人「こどもの力」井上るみ子
 - ★ 国立国際医療研究センター渡辺麻野子
 - ★ NPO法人「遊びのボランティア」坂上和子 萬谷耕造 古賀恵子
 - ★ 静岡こども病院 藪崎和美
 - ★ アニマシオントイ 渡辺美佐子
 - ★ 神奈川県立保健福祉大学 野中淳子 米山雅子
 - ★ 事務局 関根和子
 - ★ キリン福祉財団 北村公重

第3号 2019/12/10
事務局
東京都新宿区若松町 10-1-302
☎080-5527-4379
代表 坂上和子

本会は小児医療施設のボランティア活動の発展を願って立ち上げました。そのために市民社会と病院をつなぐコーディネーターが欠かせないと考え、コーディネーターのつながりを大切にしています。会員募集中。

『ぴかぴかの病院を訪ねて』 坂上和子
ボラコ新聞第3号では埼玉県立小児医療センターの研修会の報告をします。この病院では、病院組織と別に、病院が活動することを承認したいいくつかのボランティア団体があり、外来・園芸・裁縫・遊びなど約190名のボランティアが登録しています。今回は主に関東圏域に声をかけて、19名が参加しました。前回は大阪の視察でしたが、そこでずらりと並んだミシンの前で裁縫するボランティアを視察した埼玉では、すぐに病院とかけあつて3台のミシンを購入されました。今回はさっそくそのミシンをかす縫製ボランティアの働きをみせていただきました。現場を見てつながりが出て来ると、「これならうちにも出来そう」という行動に即つながらることが素晴らしいですね。本会は仲間を作り、他の病院を知って、よいものを学び取り入れながら、こどもの療養環境をよくしていこうという趣旨で立ち上げました。つながることで、病院が変わる。子どもたちも家族も笑顔になる、そんな環境作りに挑戦している埼玉のボランティア活動とコーディネーターの働きを紹介します。

プログラム
開催日：2019年10月31日（木曜）
10:00～・病院副院長望月弘先生のご挨拶と概要
10:40～・ボランティア活動見学（外来・屋上・縫製等）
11:40～・保育室見学
12:00～・ランチ交流
12:50～14:30・意見交換
終了後院内マクドナルドハウス見学



約190名のボランティア登録がある。病院は「病院ボランティアの会」を含めた5団体の活動を承認し、抗体検査の無料提供とワクチン接種は原価価格で提供している。

廊下やプレイルームなどいたるところにボランティアによる折り紙のアート作品が飾られ、病院を楽しい空間にしている

ハンドマッサージボランティア。「付き添いのお母さんたちが手をもんでもらいながら、おしゃべりいっぱいしてくるんですよ」

ソーイングボランティア。IVHを入れる袋やカバーほか赤ちゃんの手をくるむミトンやお洋服”も手掛けている。

きょうだい預かりの部屋専任の保育士が2名配置され、予約制。利用料は無料、110円のおやつ代のみ。ここでおやつを食べることも可能。

見学者感想

★視察先は国が指定する小児がん拠点病院です。2017年から専任のボランティアコーディネーターを置き、わずか3年の間に目覚ましい発展ぶり。副院長望月弘先生のお話からこれらの急成長はトップの意識の高さによると感じた次第です

★遊ぶスペースや食事コーナーがある広くて居心地の良い総合待合、絵本作家による可愛らしいキャラクターがそこら中にいて、お子さんの喜ぶしかけがたくさんあり、病院だということをおぼろげに思い出さずじまいでした。きょうだいあずかりのお部屋の広さ、整備の充実さにも驚きました。今回の研修でボランティアさんのお力の偉大さを改めて感じました。

★「きょうだい児預かり」について院長が必要を認め、設計段階から場所も決め、非常勤保育士も雇用しているのがうらやましかったです。また、4つの感染症チェックについても、病院で抗体価検査を無料でしている事。ワクチンも原価1500円は魅力的です。他の医療機関では、5000円とか、1万円かかるため、ハードルが高くなり、あきらめるボランティアさんもいないわけではありません。

★ひとつの建物にいろいろな機能が集約され、多くのボランティアの活躍がわかりました。こうした研修会にボランティアさんも積極的に参加されているのを見て、私自身もボランティアさんに一緒に参加しませんかと声をかけていくことが必要だと思いました。

★コーディネーターの繋がり、活動を前進させる原動力ですね。今日の活動を見学する中で呼吸器を付けた方がいらして私には最初患者さんと思っていました。ハンディを持った方でも参加できること目からウロコでした。

★全国の皆さんと繋がっていることで各施設の良い試みがタイムリーに活かされていることを皆さんの報告から感じました。ボランティア募集要項についてそれぞれの経験や宝となる気付きを聞いたことはとても勉強になりました。

★他病院ボランティア活動を見ることが出来たのは、今後の私どもの病院のボランティア活動の具体的な目標の糧になるかと思えます。来月、今年度最後のボランティア研修会があります。今年度の応募者と継続などのデータやアンケートも取って行きたいと思ひ、長期戦で努力を続けよう今日皆さんにお会いし、また刺激と力ももらいました。

★他の病院のボランティアを知る事は本当に貴重です。ボランティアの違いを知る事で自分達の利点と欠点もよりわかりますし、病院の体制の違いによる内部事情等も知る事ができました。今日の視察内容や感じた事は他のボランティアにも伝えたいと思います。

★大変参考になりました。ボランティアを受入れ、安定して活動してもらおうための工夫や人員の配置もすばらしかったです。今後このような時間を作ってきたいです。

★ピアサポートなど幾つかの親の会との連携（病院の入りぐちに、ピアサポートの情報や、幾つかの親の会の情報が展示されていた）が、今後はこのような会との情報交換なども考えられるのではないかと思います。

★本会の企画する視察交流はそれぞれの現場で様々な立場で活動しているボランティアの方々に触れる機会があり、そうした生の声を聞けることが研修の大切な点だと強く感じます。

ようそこ 埼玉小児医療センターへ

富澤真麻ボランティアコーディネーター

このたびは、“小児医療施設ボランティアコーディネーターの会”研修会へのご参加及び埼玉県立小児医療センターへご来院いただき、誠にありがとうございました。当日は、限られたお時間での見学と意見交換会となり慌ただしい一日となりましたが、皆様と有意義なお時間を共有させていただきました。心より感謝申し上げます。あらためて当センターのボランティア活動についてご説明させていただきます。当センターは、3年前、さいたま新都心への移転とほぼ同時にボランティアを導入しました。交通の便がよくなったこともあり、初めての募集説明会には多くの地域住民の方にご参加いただき、結果、登録メンバーは100名を超え大変驚かれました。

当時は外来受診のお手伝いが主な活動でしたが、年月とともに活動内容が拡がり、今では案内のほかに園芸・ソーイング・あそびの日・クラフト・集団外来補助と6グループで活動しています。昨年“病院ボランティアの会”として団体を設立しました。

ボランティア活動が変化するとともに、センターのボランティアに対する処遇も大きく変わりました。

センター内で活動する5つの団体について「承認ボランティア」と位置づけ、抗体価検査の無料実施、交流会開催などにより職員の認知度も上がりました。当初、新参者扱いだったボランティアが、今では、「頼りにしている」「なくてはならない存在」「ありがたい」と毎日のように声をかけて頂けるようになり、ボランティアさんもコーディネーターもその言葉が日々の支えとなっています。そのような中で、今回、視察先施設として皆さまをお招きすることになり、まずは、成長過程にある我々の活動を見ていただき、忌憚のないご意見や今後に向けてのアドバイスを頂戴できればと考えていました。当日は、皆さまの経験に基づいた貴重なお話を伺い、どれも具体的ですぐに生かしたくなるご助言ばかりで、今後の道筋を見つけれられたような気がしてワクワクいたしました。ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。また、このように貴重な機会を設けていただいたボラコの会事務局の皆さま、キリン福祉財団様にもこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

研修会に参加して

病院ボランティアの会 代表 泉名 節子

「教えて下さい・師長さん！何故私たちにこのような重い障害児が生まれたのですか」と若い母親は目をウルウルさせながら、か細い声で尋ねられた。今から30年前、NICUの師長をしていたある日のことが昨日のように鮮明に思い出される。いまだにモヤモヤとしている。そのような気持ちがきっかけで当センター代表の拝命をいただいた。そこから3年が経過した。4年目の進化が問われると模索している中、コラボの会の研修を受けたことで多くの学びを頂いた。「目から鱗」とはこのような状態をいうのでしょうか。

- ① 全国ボランティアコーディネーター研究研修会という全国組織の存在。
- ② ボラコのいる16施設の活動の内容を広報誌・ガラガラドンの「20年のあゆみ」特に「オレンジクラブ」誌等を拝見することで勇気を頂き、当ボランティアの4年目の目標が見えてきたように思っている。
- ③ 意見交換では当院での日頃の悩みであった募集時のボランティアの条件「心身ともに健康」をどうとらえるか。電動車いすで呼吸器をつけての会員の受け入れや会員(190名)の資質の向上に向けての問題に対してアドバイスもいただいた。遊びのボランティア代表坂上和子氏から会員全体の底力を上げるためには「教育研修」が不可欠ではないかとご指摘を頂いた。大変有意義な研修であった。更に微笑みが飛び交うボランティアの会を目指して今日の一步踏み出します。

埼玉県立小児医療センターを訪問して

米山雅子(神奈川県立保健福祉大学)

埼玉県立小児医療センターでのボランティアコーディネーターの会、研修会に参加させていただきました。『子どもたちの未来は私たちの未来』という基本方針のもと医療が提供される病院環境を支えるボランティアの皆様やその調整をされているコーディネーターの活動をお聞きし、その実際を見学させていただきました。当センターは2016年12月に移転・完成したばかりで新しく近代的な建物でした。とはいえ、いたるところに楽器のロボットらがお出迎えしてくれて、楽しい印象でした。さいたま新都心駅とペデストリアンデッキで結ばれ、車いすやベビーカーのお子様にもスムーズに移動できる空間があり、屋上からの眺めも最高でした。

家族待合室での遊びやハンドトリートメントの提供、屋外庭園の植栽の手入れ、縫製や飾りつけ、そして併設されている院内保育室やドナルドマクドナルドハウス、すべてにおいて子どもとその家族への愛情、温かさが反映されていること実感いたしました。とともにボランティアコーディネーターの方々情報交換を行い、様々な取り組みを共有していくことで、組織に働きかけ、ボランティアの皆様の思いや参加されるボランティア皆様の強みをつなぎ、活動を創り、生み出していく、子どもと家族を支えるボランティア活動の発展につながるということも実感いたしました。

私は看護教員として専門病院での小児看護学実習指導を担当させていただいておりますが、子どもや家族にとってのよりよい病院環境とは、を考えたときにボランティアの皆様の活動による支えが不可欠であること日々強く感じております。様々な職種がつながり強みを生かし合いながら子どもと家族を支えていくことの大切さを、私自身も将来の小児看護を担う学生に伝えていきたいと改めて実感した一日でした。貴重な機会をありがとうございました。温かく迎えてくださり情報共有させていただきました埼玉県立小児医療センターのボランティアコーディネーター富澤真麻様はじめ、ボランティアの皆様に感謝申し上げます。

全国ボランティアコーディネーター研究集会で小児医療施設ボランティアコーディネーター分科会を設けました。

お知らせ

“全国ボランティアコーディネーター研究集会”

期日 2020年 2月22日(土)～23日(日)

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

小児医療施設ボランティアコーディネーター分科会

2月22日13:00～6:30(12時からボラコの会の総会)



テーマ「ボランティア活動を生み出すボランティアコーディネーターの役割り—困難な事例や成功事例から学んだこと—

実践報告 神奈川・あいち・埼玉・宮城の子ども病院のコーディネーター
講師

① 神奈川県立保健福祉大学教授 野中淳子氏

内容：小児がんの子どもがいる204の小児医療施設におけるボランティアとコーディネーターの調査報告

② NPO法人 病気の子どもの支援ネット遊びのボランティア 坂上和子氏

内容：カナダの子ども病院のボランティア視察

小児医療施設で子どもの療養環境の調整をされている方、ボランティアリーダーの方を対象にしています。遠方の方は交通費と宿泊費の助成をいたしますので事務局にご相談下さい。詳細はJVCC全国ボランティアコーディネーター研究集会のホームページをご覧ください。